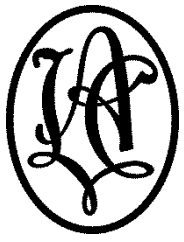


2018



J・A・C

(第 42 号)



平成 30 年 3 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聡

事務局 〒283-0116

山武郡九十九里町西野672-2

三木雄三方

T E L 0475-76-9467

E-Mail 支部だより参照

(表紙の絵)「三千院往生極楽院」

水彩画 小菅一弘 作 (敬称略)

新年山行 津辺野山～江月水仙ロード

1 月 13 日 新井 好夫

朝六時半に自宅を出ると、一点の曇りのない空とキッパリとした冷たい空気に良い日であろう予感がする。

集合場所である岩井駅で山口 L と三木支部長から本日の予定を聞き、各自自己紹介を行った。なお、本日は 4 名の方が体調不良で欠席とのこと。総員 16 名で出発となる。

先ずは、県道を行くと早速足元に早くも水仙が現れる。この後、最後まで水仙を見ることができました。

道の駅で小休止後、30 分くらい歩くと突然山口 L が道のない急坂を登りロープを垂らした。

何と、尾根まで一気に登り尾根伝いに津辺野山に向かうとの事。30 分くらいはキツイ登りであったがその後は緩やかになってきた。地面は落ち葉が多量に落ちていてチョット歩きづらいが、サクサク気持ち良かった。途中東京湾が見える見晴らし台で小休止。ここは、非常に良い場所で又、訪れたいと思いました。

11 時 45 分、津辺野山頂上に到着、見晴らしが悪いので少し、下った所で昼食を取る。

後半は、江月水仙ロードに向かう下り坂となる。水仙ロードに入ると水仙の群生地が沢山あり、見応えがある場所であった。



ただ、水仙は江戸水仙だけであり、バラ園みたいに色々な種類があるわけではありません。

花では、河津桜が咲いていたが、この辺りでは石橋山の戦いに破れた頼朝にちなみ頼朝桜と呼んでいるそうです。因みに支部長の話では、頼朝を匿ったのはこの地方の豪族千葉氏との事。その他、ロウバイ、椿、菜の花等が見られました。

里に入ると、私はチョット昔にタイムスリップした気分になりました。臨時の販売所があり地元の特産品が売られており、皆さん買い物を楽しんだようです。

さらに下り、保田駅の近くで解散となりました。改めて、千葉にも良い山がある事を気付かされました。【参加者氏名 13 ページ】

平成29年度年次晩餐会

21名が参加

12月2日(土)

山口文嗣



平成29年度年次晩餐会が12月2日(土)新宿京王プラザホテルにて開催された。全国から500名以上の会員が集まった。千葉支部からは21名が出席し、全国各支部の会員との交歓を楽しんだ。

晩餐会前の記念講演会では、JAC学生部ザンスカル遠征2017報告と、山本正嘉会員による登山のための体力トレーニングと題した講演が行われた。引き続きデナリ南西壁をスキー滑降した山岳スキーヤー佐々木大輔氏と、NHK山岳カメラマン関裕一氏をゲストに迎え、世紀の挑戦に迫った映像が上映され、その迫力に感動させられた。

親子で楽しむ山登り“清澄山”ハイキング

12月10日(日)

吉野聡

子どもたちが自然と接する機会を提供しようという茂原子どもセンターの主催する「親子で楽しむ山登り“清澄山ハイキング”」に協力して、昨年の富山に続き清澄山に親子を引率した。

今回参加した親子は11グループ33人内、子どもが17人。昨年楽しかったので今年も参加したという家族もあった。

当初、内浦山から清澄山に向かう林道を歩くことを予定していたが、大規模な土砂崩れが発生して通行止めとなり、内浦山と清澄山へはそれぞれバスで移動する計画に変更した。

最初の内浦山県民の森では、地元の鈴木操さんと吉田明子さんが出迎えて歓迎してくれた。

林道基点から木魂(もっこん)の森まで往復7キロを鈴木さんの案内で林道を歩く。子ども達は、鈴木さんが教えてくれる赤い実をつけたイイギリ、樹皮が鹿の子模様になる鹿子(かご)の木、

参加者 茂原子どもセンター：親子 33名、スタッフ 16名、内田達也茂原市教育長(ご夫妻)
千葉支部 高橋橋琢子、平出正美、鈴木操、吉田明子、吉野聡 (敬称 略)



などに興味津々。中央芝生広場でお弁当を食べ、清澄寺に向かう。本堂の裏に回り清澄山系最高峰の妙見山(377メートル)に登る。多少バテ気味なお父さん、お母さんをしり目に子どもたち元気一杯で全員登頂。「最後の山登りがきつかったけど楽しかった」「また来たい」などと親子で楽しそうに話している。子どもたちと一緒に房総の自然に目一杯触れた一日だった。

忘年山行 三ツ峠山 12月23日(土)～24日(日)

柳川 しげよ

新宿発 8 時 45 分、11 番ホームのホリデー快速富士山 1 号を待つ。ホームにカメラを持った大人や子供達がなぜか私達の乗る電車を待ち受けているようだ。そして、ホームに入ってきたのが懐かしい特急列車 189 系。若いカメラを持った男性が、「この電車も、もうじき姿を消すんです。」と懸命に話される。そんな電車に今回参加の山本リーダーをはじめ、5 名が乗り込んだ。三田さんとは、三ツ峠小屋で合流の予定だ。

10 時 45 分、三ツ峠駅に到着する。これもレトロな駅舎で窓ガラスの鍵はねじ式である。駅員に思わず何年頃のものが尋ねるも、首をかしげ、はっきりしない。駅舎に向かって、シャッターを押すと、駅の屋根の上に、三ツ峠山が、きれいにおさまった。そこからは、長い舗装道路をひたすら登る。今年 1 月の時は、雪で真っ白だったとか。



しかし、今回は、乾いた夏の道。側溝は、勢いよく山からの湧き水が流れている。登ること 1 時間、だるま石に到着。ビューポイントごとに、写真タイムをもうける。途中、同じルートで日帰りする、4 歳の息子さんをつれた木村さんと出会う。あの息子さんも数年後、立派な山男になっているかも。成長が楽しみ。登り始めて、4 時間、最後の急登を登りきると、三ツ峠山荘にやっと到着。皆さん、



なかなかの健脚で、必死でここまでついてきた。小屋の中村さんが笑顔で迎えてくれる。そして、目の前には、神々しい富士山を見るのが、なんといっても、嬉しい。これほど富士山がしっかり見える場所はなかったかも。誇らしげに友人達に、メールで送る。

日没に合わせ、山頂を目指す。1786 メートルの山頂に立つ。足下には雪はなし。寒さが身にしみる。富士山を遮るものは何もない。ただ目の前には白いパウダーかけた、大きな富士山があるのみ。遠く、南アルプスも美しい。夢中で写真を撮り続ける。

中村さん親子を囲んで、ワインを飲み干し、十分過ぎるほどのご馳走をいただきながら、尽きない山の話で、夜が深けるのも忘れる。今度、アツモリソウの花の咲く頃に来るよう、お誘いを受ける。

翌朝、日の出に合わせ、再び、山頂に向かう。8 時 30 分、小屋を後に下山。天上山、カチカチ山では大勢の外国人客で賑わっていた。この富士山を見て、日本の最高の土産になったことだろう。3 時間あまりで、河口湖駅に到着。各々、高速バスにて、新宿に向かう。

参加者 山本哲夫 (CL) 三田博 (SL) 斎藤米造 宮崎美代子 三品京子 柳川しげよ
(敬称 略)

大福山からチバニアン

12月9日（土） 小林 義亮

<まずはご挨拶>

この度千葉支部に入会を許されました小林です。本来創立時から入っているべきだったのですが、アルパインスキークラブで動き回っていたため余力がなくそのままになっておりました。同クラブで17年間お世話になっていましたが、経年とともに体力の衰えが目立ち、このまま危険な活動をしては、仲間にも迷惑がかかるかと今年6月で退会しました。これからは年相応の活動を致したく、入会をお願いした次第です。今後安全登山に徹して皆さまにご迷惑をお掛けしないよう頑張る所存です。宜しくお願い申し上げます。

<大福山>

出発点はローカル色豊かな小湊鉄道に1時間ほど揺られて16番目の養老溪谷駅から。駅からはすぐ鄙びた田舎道となる。10時50分と遅い出発である。空気は冷えているが太陽が暖かい。

25分ほどで林道と分かれて梅ヶ瀬溪谷への道を行く。ぬかるんだ道を進むとその内に流れを飛び石で進んでいく溪谷の道となる。水量は少ないので靴を濡らさないで涉ることができる。川の両岸には、所々に高さ30から50メートルの梅ヶ瀬層といわれる垂直に切り立った浸食崖が見られる。日の光に照らされた白っぽい崖には砂岩の層と硬いがもろい岩石層が幾筋も見られ、頂上付近には名残の紅葉が青い空に映えている。し

かし日の当たらない溪谷の底は寒気が澱んでうすら寒い。



足元の悪い溪谷を進むこと1時間、小高い広場に着いた。ここは宮崎出身の日高誠実の書堂のあったところ。氏は陸軍省の役人を退官してから当地に188町歩と広大な官有地の払い下げを受けて、ここに邸を構えて房総の子弟の教育に励んだ。溪谷に梅の木を多く植え、大和の月ヶ瀬に因んでこの溪谷を梅ヶ瀬溪谷と名付けた。

今は屋敷跡が平地に残るだけであるが門柱や沓脱石の跡があり、おそらく庭先にあったであろう楓の大木が書堂の雰囲気を与えている。すでに紅葉は終わり、落ち葉となって平地を埋めている。

12時を過ぎていたのでここで昼食を取った。日が当たらないためうすら寒い。気温は5度しかない。冷気が沈殿している感である。

昼食後、10分ほど戻り、稜線へと続く急坂を登る。再び太陽の恵みを受けて寒さにこわばった体が元気よくよみがえる。標高差100メートルほど上ると稜線への緩い上りとなって間もなく林道に上り付く。日曜だが人は少ない。既に紅葉が盛りを過ぎているためだろう。暖かい日を浴びて思わず笑みがこぼれる。背後には房総特有のこれと際だつピークを持たない山々が延々と連なる。

林道脇の東屋で記念写真を撮って、少憩の後、山頂の白鳥神社へと向かう。長い石段を喘ぎながら上がると小さな神社が鎮まっている。背後の高みは標高292メートル、市原市の最高所である。下山の無事を祈った後、道のない稜線を展望台へと下る。

5分程で急に視界が開けると螺旋階段を持つ展望台があった。ここからは東京湾を隔ててスカイツリーをはじめ東京のビル群や館山方面の山々が一望の下だ。しかし変化のない山群の山座同定は難しい。

<チバニアン>

展望台から少し下って、ここで予定になかったチバニアンを見ていこうと衆議一決した。ただ時間が午後2時を過ぎていたので、途中の上総大久保で日没時はそのまま列車に乗ることとして延々と舗装された林道を歩いていった。途中で殆ど歩かれていない山道に入る。倒木や水で掘れた歩きにくい箇所が多い。これぞ房総の里山である。

日が暮れてきて上総大久保が近づき、皆ここから列車に乗るかと内心考えていたが、駅直前

で1時間に1本の列車が行ってしまった。ここで1時間待つのはつらいと、チバニアン経由、次の駅、月崎まで前進することにした。時折車の行き交う当地幹線道路を30分ほど進み横道にそれて、養老川に下り立つとチバニアンの所在する河原である。

チバニアン（ラテン語で千葉時代の意）は77万年まえの地磁気逆転の証拠として学会の最優力箇所として認定される事が予想されている。地磁気逆転の意味するところは素人には説明できないので述べない。薄暗くなってきたが、車で訪れる人もかなりいる。

暗くなった道を再び歩き出し、コンビニエンスがポツンとあるだけの月崎駅に近づくと場違いの駅の派手なイルミネーションが我々を迎えてくれた。

五井駅から千葉に戻って駅前で盛大な反省会。チバニアンは収穫だったね、と言いつつ。紅葉は盛りを過ぎていたが、予定外で、話題性に富んだチバニアンを訪問できたのは収穫であった。



<コースタイム>

養老溪谷駅10:32 出10:48→日高邸12:25 出12:55
→山頂白鳥神社13:50→展望台→大久保駅15:35
→チバニアン16:13→月崎駅17:05

歩行距離19キロ、累積上り597メートル（大福山は標高が低い、アップダウンの道を歩いたので、結構なアルバイトになった）。

<参加者・敬称略>

三田博（L）、高橋正彦、小林義亮、塩塚生二、新井好夫、竹園清孝、鎌谷繁、山口文嗣、杉本正夫、梶田義弘、松田宏也、須藤憲一、結城純一・美桜（敬称 略）

ヤゴ沢から景信山へ～シモバシラ見つけました

1月6日（土）

吉田明子

前日の夕方に冷たい小雨がパラつき、ちょっと心配していたところ、リーダー高橋さんからの「決行」メールが届き、安心して就寝しました。

翌朝、高尾駅北口に到着して驚いたのは人の多さ。それも皆、山登りの姿をしてバスを待っています。山歩きって、こんなに人気なのだと再確認した瞬間でした。

高橋さんの案内文「定員オーバーでも増発します」の文言通り、同時に 2 台のバスが定刻に出発して山道を進みます。カーブは多いし、道は狭いし、この角は通れるのと言う箇所も慣れたものでスイスイと進み、小仏バス停下車。

一足早く到着された高橋さんとも合流し、無事に山行へ出発です。随所で高橋さんが解説やら、心配して声をかけてくださいます。



初めてのヤゴ沢からの景信山山行でしたが、ヤゴ沢入口のつららから始まり、調べたら面白そうな岩がゴロゴロしている沢歩きに、ジグザクの結構な登りの杉林、気持ち良い尾根歩きなど、とても変化があって楽しいコース。天気は



も恵まれ、途中、カイロを剥がし、着込んだ服を 2 枚は脱いだでしょうか。また、山頂からの素晴らしい富士山や都心のビル群など素敵な景色のご褒美も頂きました。

更に嬉しかったのは、山頂に近い杉林の足元でシモバシラ（シソ科）の霜柱を見られた事。聞いた事はあったものの見たのは初めてでした。シモバシラという植物の茎に出来る氷の花（霜の花）で、茎に「ウニュッ」と白い飴細工のような塊りが付き、これが「氷の花」だと教えてもらいました。

「氷の花」が見られる条件と言うのが「凍るほど気温が低く、土が凍らないほどの気温、雪が降っていない」という条件が見事に揃い、今日の山行に乾杯したい気分でした。

景信山の名物は『山菜の天ぷら』と、春の桜も良い（物凄く混むらしい）というのを山頂で聞き、次回は春、天ぷらを食べに登ろうと心に決めて下山となりました。

参加者：L 高橋、S L 山口、山田、吉田、鈴木（操）、三田博、広村恵美子（敬称 略）

箱根・湯坂路で雪山ハイキング

2月4日(日) 三田 博



湯坂路(ゆさかみち)は、江戸時代に箱根旧街道ができるまで使われていた鎌倉古道で、今ではハイキングコースとして整備されている。湯本の駅からバスに乗り、小涌谷を過ぎると道路脇にはかなりの雪が積もっていた。湯坂路入口のバス停で下りると、除雪した雪で歩道が埋まっていた。

いつものように準備、自己紹介を済ませスタート。積雪は20～30センチあり、ツボ足でゆっくり歩く。みんな想像以上だったようで「箱根で雪山に登るとは」と驚いている。20分ほど緩やかに登ると最初のピーク、鷹巣山(834m・たかのすやま)に到着。休憩に適したベンチとテーブルがあるが雪が積もっていて使えない。いったん急に下ったところの鞍部が小涌谷分岐で、ここからは山頂を尖らせた金時山がよく見えた。さらに進むとベンチに7、8人グループが休んでいた。こ

こが二つ目のピーク、浅間山(800m・せんげんやま)だ。ありがたいことに、入れ替わりに席を譲ってくれた。いちめんの雪景色、青空が広がり申し分のない天気の中、のんびりした食事になった。

浅間山の山頂は少し先のベンチのところのようで、ここに三角点と標識があった。あとは箱根湯本の駅近くまで、雪の感触を楽しみながら1時間半掛けてだらだら下って行く。途中、湘南の海の向こうに房総半島と思われる山並みが霞んで見えた。持っていた軽アイゼンは使わずに済み、午後3時前には下山口に到着。「箱根で温泉組」と「小田原カマボコで一杯組」に分かれ解散した。



今回は歩く距離も時間も短く、物足りないと感じた人もいたかもしれないが、「雪山の雰囲気味わえて楽しかった」と言ってくれる人がいて良かった。

参加者：三田博(L)、山田紀夫、湯下正子、吉永英明、山崎完治、香高真奈美、宮崎美智代、鎌谷繁、塩塚生二、竹園清孝、國宗文、吉田望、中田彩(敬称 略)

晴香園の子ども達と物見山&日和田山へ

11月25日(土)

萩原 恵

秋晴れの日、晴香園の子ども達と一緒に登る物見山&日和田山山行に参加しました。

朝9時30分に武蔵横手駅に集合だったのですが、電車を乗り間違え30分も遅刻してしまうという大失敗をしてしまいました。

(皆さん、すみませんでした。)

こんな私たちでしたが、子ども達も他のメンバーの方も温かく迎え入れてくださり、10時に自己紹介をして出発しました。

まずは五常の滝を見学し、物見山にある北向地蔵へと向かいました。

とにかく子ども達は元気で歩くスピードも速い!

初心者の私はひたすら足元を見ながら、必死についていきました。

北向地蔵のところにある富士見台では、山々が重なり合う一番上に雪をかぶった富士山の頂上が見え感動しました。12時「お腹がすいた～」という声が出始めたころ物見山山頂に到着。

赤く染まった楓と子ども達との交流を楽しみながら昼食をとりました。次に日和田山に向かいました。

日和田山山頂では眼下に街並みが広がり、遠くに筑波山、スカイツリーなども見え心が晴れ晴れする眺望でした。二つの山頂の眺望の違いも楽しめました。

日和田山からの下山途中にある金刀比羅神社下の女坂、男坂では子どもたちのいる先頭グループは男坂を、遅れた大人たちは女坂を歩いてしまうというハプニングがありました。ちょっとドキドキしましたが、みんな無事に下山できて良かったです。あのごつごつとした岩場をいとも簡単に下りていく子どもたちはやっぱりすごいなと感心しました。

色々なことがあった分、子ども達やメンバーの方ともたくさんお話することができ、心に残る山行となりました。



参加者；坂上光恵、能美勝博、萩原恵、羽藤美代子、山田紀夫、山田豊、湯下正子（敬称 略）

笹尾根へ晴香園の子ども達と 1月20日(土) 羽藤美代子

武蔵五日市駅に着くと、9時発の数馬行きのバス停にはすでに多くの登山客が列をなし、2台のバスは満員だった。笛吹入口のバス停で降りた。天気予報どおり曇り空だったが風はなく、空気もそれほど冷たくなかった。自己紹介と湯下さんから子どもたちへ歩くときの注意などを話し10時に笛吹(うずしき)峠登山口へと向かう。1時間ほど登ると上野原方面の山々の見える見晴らしの良いところとなり、汗をふき水分でのどをうるおす。霜柱がとけ滑りやすいのぼりや左側が急斜面の狭い登山道もあったが子ども達はしっかり歩いていた。眺望の良い所で一息ついている時男の子が大きな声でヤッホーと向こうの山々に呼びかけた。すると小



さくこだまがヤッホーと返ってきた。次々と子ども達ヤッホーとさけんで、私

たちも顔がほころび疲れもふっとんだ。

11時50分笛吹峠に着く。山々の展望はなかったが、広々とした木々の間で昼食となる。すっかり重くなったお腹で足も重いが、子ども達はおしゃべりしながら歩く。身軽さに感心していると、後ろの人が「私達はこども達の年も体重も3倍以上だからねえー」との言葉に納得。目の出たドングリを探し、厚く積もった枯れ葉を踏みしめる音もとてもいいものだ。

参加者

晴香園 子ども4名 職員2名

千葉支部 湯下正子、小板橋志朗、香高真奈美、羽藤美代子、吉田望〈香高さん友達〉(敬称 略)

13時10分数馬峠に着く、ベンチもあり展望も良く、小板橋さんから頂いたハッカあめで皆のどをなめらかにして、今度は大人も全員参加のヤッホー大会が始まった。

何十年ぶりの大きな声だろうか、とても子ども達に楽しませてもらった。



田和峠を過ぎたあたりで東京多摩支部の初心者登山教室の団体とであった。

14時10分榎寄山に着く、残念ながら富士山、三ツ峠、丹沢の山々は望むことは出来なかった。16時07分のバスに間に合うよう仲の平バス停へと下山する。

羽根布団のように厚く積もった落ち葉を歩くととても気持ちがいいのだが底がわからず階段のところは気を付けて下らなければならなかった。人里が見えてきて急斜面の畑が表れ土手に黄色のかわいい福寿草のつぼみがもう咲こうとしていた。げんきいっぱいの子も達と楽しい山行でした。

つかさ君 おち葉の中を歩くのが楽しかった

子ども達からの一言

夢(ゆめか)ちゃん 大声でヤッホーと叫んで山びこコンクール、楽しかった。

美穂ちゃん 山の低いところと高いところの温度さを感じた。

和蒔(かずま)くん いろいろな種類のドングリがあることを知った。

郡界尾根踏査の報告

第 16 回平成 29 年 10 月 31 日 (火)

コース：9：55 四郎治林道ゲート→四郎治林道
終点 11：10→キンダン川左岸上尾根 12：25→
13：30 四郎治林道終点

山口 文嗣

前シーズンの最終回(平成 29 年 3 月)に元清澄山を越えて、郡界尾根がいよいよ東大演習林の中を通るようになるため、演習林通行許可申請と下見を兼ねて、急遽平日に行くことになった。

内浦山県民の森の吉田さんをお願いして演習林事務所で四郎治林道ゲートの鍵を借りる。吉田さんの車で郡界沿いの四郎治林道を終点まで入る。終点からは徒歩で郡界尾根を東に向かい小櫃川源流のキンダン川左岸尾根上まで達する。ここを渡った対岸が湯ヶ滝の旧集落のはずであるが、ロープがなければ怖くて下ることが出来ない程の急斜面である。ここを大人数で通過するのは無理がありそうなので、今回の下見を第 16 回目として踏査済にすることにした。

参加者：山口文嗣、岩尾富士夫、吉田明子
(敬称 略)



(四郎治林道終点から入山)

第 17 回平成 29 年 11 月 12 日 (日)

コース：10：00 白岩→10：40 林道終点
→12：15 石尊山・麻綿原縦走路
12：30→13：20 麻綿原天拝園

山口 文嗣

県道 81 号清澄養老ラインの白岩館から郡界尾根沿いの林道を東に向かう。途中林道からそれて 10 時 40 分に東大演習林内に入り、12 時 15 分に石尊山から麻綿原に向かう縦走路に出る。実は 4 日ほど前の 11 月 8 日に岩尾、山口の 2 名が演習林職員の三次さんの案内で同じコースを下見に入っている。台風の影響で演習林内の歩道で崖崩れがあるかも知れないということで、演習林職員が調査を兼ねて同行してくれた。この時は健脚の三次さんに引っ張られて同じルートを 1 時間で駆け抜けている。

石尊山からの縦走路の合流点の少し南は 10 年程前に 30 数人のパーティが道を間違え遭難騒ぎになった場所である。ここから 50 分程で麻綿原の天拝園に着いた。

参加者：山口文嗣、岩尾富士夫、三田博、
山崎完治、松田宏也、高橋正彦、
小澤けい子、湯下正子、(敬称 略)



(天拝園上の初日山)

浦安散歩～地元を知り地元を巡る

2月10日（土） 能美勝博

千葉支部のサテライトとして、主に東葛飾南部地域と総武線沿線の会員・会友が第一木曜日、市川市の本八幡駅に近い居酒屋「上喜源」で「一木会」という会合を開いています。ここでは、イリオモテヤマネコ研究の第一人者である安間さんの動物シリーズの話などを聞きながら酒を酌み交わしています。

今回の浦安散歩はこの会から話が持ち上がりました。これまでに、市川市の江戸川沿い、真間川沿いを3回にわたり歩いてきました。

市川から江戸川を下ると浦安に達します。

地元を知り地元を巡る街中散歩は、未知の山の頂上に達する喜びとは一味違う何気ない喜びを発見させてくれます。

今回は、浦安観光コンベンション協会にお勤めの永岡さんにコースの設定、ガイド・スパ・居酒屋の手配などをお願いしました。

2月10日土曜日の午後1時、13人の参加者が東西線浦安駅を出発し、街中ガイドの細田さんの案内で、埋め立て前に栄えた旧漁師町をその面影をたどりながら巡りました。清龍神社、豊受神社には富士塚があり、ここで記念撮影。江戸時代の



商家「旧宇田川家住宅」、漁師の家「旧大塚家住宅」ではそれぞれのガイドさんの軽妙な説明で、帳場を見張る天井の小穴、大雨被害の時に避難する中2階など、思いがけない発見もありました。

そして散歩のピークは昭和27年頃の活気のあふれる浦安を再現した浦安市郷土博物館です。たばこ屋、魚屋、三軒長屋などの昔懐かしい家屋が再現され、本館展示場では埋め立てで4倍になった現在までの浦安市の経緯や漁業で栄えた当時の様子が展示されていました。知られざる浦安の第二のテーマパークです。

散歩を終えた参加者は、冷えた体を「浦安万華郷」の温泉で温め、更に、浦安で人気の居酒屋で体の中から温め、午後8時、京葉線新浦安駅を後にしました。



参加者

宇野圭子、香高真奈美、高橋正彦、廣村恵美子、三浦久美、柳下忠義、山口文嗣、能美勝博（敬称 略）
永岡敏昭氏外浦安観光コンベンション協会4名

お 知 ら せ

●事務局長就任のご挨拶



前任の高橋琢子さんからバトンタッチを受け、2月1日より支部事務局長に就任した三田博です。日本山岳会に入会してまだ3年も経っておらず、突然の大役に戸惑っております。

これまで「みんなで楽しく安全に」山登りを楽しむため山行委員を務めさせていただきました。事務局長として、より一層会員会友がクラブライフを楽しめるようお手伝いしていきたいと思っておりますので、ご指導ご協力よろしくお願いいたします。

●会員の動向

新入会友 N.N さん 千葉市
退会 M.M さん 東金市 (16094)
訃報 N.M 殿 千葉市 (12832) 12 月 15 日逝去
 K.A 殿 佐倉市 (5258) 12 月 23 日逝去

●2018 年度 支部総会のお知らせ

2018 年度の通常総会を下記により開催いたします。この総会において 2017 年度事業及び決算報告、2018 年度事業及び収支予算計画などご審議いただきます。追って詳しいご案内を差し上げる事としておりますが、今からご予約をお願いいたします。当日の日程、議案等関係資料につきましては、後日お送りさせていただく予定です。また、総会終了後には懇親会を予定しております。

記

日時 平成 30 年 5 月 12 日 (土)
午前 9 : 30 ~ 12 : 00
場所 千葉市文化センター 9F 会議室
(昨年までと場所が違います)
〒260-0013 千葉市中央区中央 2 丁目 5 番 1 号
TEL : 043-224-8211
総 会 10 : 00 ~ 10 : 50
記念講演 11 : 00 ~ 12 : 00
講 師 : 「いのちの山」松田宏也会員
(「ミニヤコンカ奇跡の生還」著者)
懇親会 12 : 30 ~ 14 : 30
美弥和 (みみわ) 本店 043-225-5377

●全国支部懇談会は北海道で 7 月に開催

2018 年第 34 回全国支部懇談会は下記の通り北海道支部の主催で行われます。参加を検討される方は今から日程の予定をお願いいたします。詳細は会報「山」1 月号に掲載されています。

日時: 平成 30 年 7 月 21 日 (土) ~ 22 日 (日)
会場: 層雲峡温泉 層雲閣グランドホテル

北海道上川町

7 月 21 日 14 : 30 より受付

講演会と交流会

7 月 22 日 ①銀泉台・黒岳縦走

②黒岳・石室往復

③層雲峡付近周遊の 3 コース

参加申し込みは支部で一括して行います。

問合せ、申込先

三田博 支部だより参照

「山」では、申込期間が 3 月 31 日までとされていますが、全体の定員を超えた場合は締切られる可能性がありますので、早めの申し込みをお願いします。

●初心者向け読図練習を高水三山で行います

道標など整備された登山道だけなら読図が出来なくても登れますが、コンパスを使った地図読みができるようにならなければ初級者を脱することはできません。この機会に地図を読みながら山を歩く練習をしましょう。コースは一般登山道で行います。

日時 3月31日(土) JR 青梅線 軍畑駅 9時15分集合

コース 軍畑駅 → 高源寺 → 高水山 → 岩茸石山 → 惣岳山 → 御嶽駅

持ち物 登山用コンパス、地図は用意しますが自分で用意できる人は「武蔵御岳」の地形図

申込み先 三田博 支部だより参照

●菜の花見ながら江戸川ウォーク！

日程： 平成30年4月1日(日)

コース：東部野田線運河駅集合、におどり公園、江戸川合流点、クリーンセンター、三里駅(解散)

集合：9時50分 運河駅改札口 申込 3月25日まで 杉本

●日本最後の秘境！「西表島発見の旅」募集中

日程：平成30年4月12日(木)～17日(火) 5泊6日

石垣島集合、石垣島解散

費用：8～10万円(飛行機代、高速船、宿泊費、レンタカー、その他)

参加人員：10～15名 千葉支部会員、会友に限る

申込： 山田紀夫 支部だより参照

詳細は、千葉支部ウェブページ：<http://www.jac.or.jp/author7cac1/>

●「カトマンズの約束」上映会

ネパール地震を題材に日本の救助隊員とネパールの人達の交流を描いた映画「カトマンズの約束」の上映会です。千葉市の東京情報大学で救助隊のテント村のロケが行われ、千葉支部もエキストラ等で参加し撮影に協力しました。撮影の様子は、千葉支部だより35号(平成28年6月発行)で紹介したところです。

日時：平成30年4月27日(金) 午後6時～

会場：千葉市文化センター 入場無料

【1 ページ掲載の津辺野山参加者】

山口文嗣、三木雄三、吉永英明、三田博、三田芳江、松田宏也、梶田義弘、大浦陽子、船木元、宇津木仁典、塩塚生二、新井好夫、竹園清孝、鎌谷繁、國宗文、羽藤美代子(敬称 略)

●支部山行の申し込みについて

支部山行では、リーダーが記載漏れのない計画書を作成する必要から参加申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。

①氏名（会員番号） ②生年月日、年齢 ③自宅住所 ④自宅電話番号 ⑤携帯電話番号
⑥緊急連絡先氏名（続柄） ⑦緊急連絡先電話番号 ⑧山岳保険名

山行によっては定員を設けている場合があります。その時は先着順になりますので早めにお申し込み下さい。

山行の概要は千葉支部ウェブページに載せますので、確認してください。

千葉支部ウェブページ：<http://www.jac.or.jp/author7cac1/>

登山保険の加入は登山者のマナーです。必ず加入を！

●個人山行も計画書の届け出を

これまで千葉支部が主催する支部山行については、本部の遭難対策委員会宛てに登山計画書を提出することになっていましたが、昨年12月に日本山岳会の「遭難対策規程」が改正になり、個人が行う山行もすべて計画書の提出対象になりました。同時に、支部内に計画書のチェックも行う機関の設置が義務付けられました。留守担当者2名の記載も決まっています（詳しくは日本山岳会の遭難対策委員会ホームページをご覧ください）。

千葉支部としても、個人山行について山行委員等によるチェック体制をとることにいたします。具体的には下記の流れで行います。

【山行する会員は計画書を作成したら以下の4ヶ所へ同報メールを送る】

・遭難対策委員会・山行委員長・支部長・事務局長

山行委員会により見直しがある場合は、訂正した計画書を再度、遭難対策委員会に提出して下さい。

留守担当者2名は、山行委員長・支部長・事務局長または支部役員になります。留守担当者への、入山・下山連絡は忘れずにお願いします

○登山計画書は電子ファイル（Word、Excel、PDF形式）として添付してください。

○メールタイトル（件名）には下記内容を入力例に従って記載してください。

『入山年月日（西暦・半角）、支部名／個人名のいずれか提出者名、目的山域』

※入力例（支部山行の場合）：20180401、千葉支部、剣岳

※入力例（個人山行の場合）：20180401、山岳太郎、雲取山

遭難対策委員会・送付先アドレス:支部日より参照

一見手間のかかることのように見えますが、第三者の目で計画書をチェックしてもらうことはとても大切です。また万が一の緊急時に救出がスムーズに行うことができます。ぜひ提出を忘れぬよう取り決めを守っていただきたいと思います。

役 員 会 の 報 告

11月報告 11月21日（火） 市川アイリンク

出席者 鈴木、高橋（正）、三木、三田、山口、山田、山本、湯下、吉永、吉野 10名

- ・事務局長の退任、後任事務局長の選任について
- ・オレンジの会（里親支援のNPO）の山行支援について
- ・山行計画（忘年山行、新年山行）郡界尾根 外
- ・支部日より12月号進捗について

12月報告 12月19日（火） 美弥和

出席者 上村、高橋（琢）、高橋（正）、三木、三品、三田、安間、山口、山田、山本、吉永、吉野
12名

- ・山行報告 親子登山（12.10）、 郡界尾根（11.12） 外
- ・平成30年度事業計画検討 特に公益事業について
- ・安間会員からインドネシア報告及び西表島ツアー計画

1月報告 1月16日（火） 市川アイリンク

出席者 杉本、三木、三田、山口、山本、湯下、吉野 7名

- ・三田博会員を事務局長に委員の互選により
- ・支部長報告 個人山行も山行委員会に登山届の提出
- ・杉本会員から江戸川散歩の案内 ・オレンジの会と烏場山 3.25 実施
- ・西表島 4.12～4.16（4.17）で実施
- ・2019 四支部懇（千葉支部担当）2.16（土）～2.17（日）内浦山県民の森

●支部メール配信登録をお勧めします

支部日より掲載に間に合わない急な山行計画や募集案件・お知らせ、他支部会報など様々な情報をメールにて配信いたします。

登録する方は、

支部日より参照 まで「メール配信登録希望」と題してメールしてください。携帯メールアドレスは添付ファイルが送受信できないので不可。すでに配信されている方は不要です。

編集後記

久しぶりに郡界尾根踏査に参加した。道なき道を一步一步ルートを確認しながら歩く。また、今回は急斜面をよじ登り、ロープを使い降下するなど変化に富んだコースで楽しかった。終点の“おせんころがし”まで直線距離であと2キロ弱。次回はいよいよ最終区間。この秋に泊りがけで実施しようとの話も進んでいるらしい。最後まで安全な踏査を徹底することは勿論として、より多くの会員・会友の参加のもとで平成26年11月から4年越しの本事業の完了を祝いたいものだ。 (S.Y 生)

山 行 の 予 定

(月 日以降)

行き先	日 程	申 込 先	締切	備 考
鍋割山・塔ノ岳	3. 10 (土)	山本 哲夫 支部だより参照	2. 28 (水)	見所沢山あり (中級レベル)
花嫁街道・烏場山	3. 25 (日)	山口 文嗣 支部だより参照	3. 15 (木)	公益事業 オレンジの会支援
高水三山	3. 31 (土)	三田 博 支部だより参照	3. 24 (土)	奥多摩入門の山 (読図練習)
菜の花見ながら 江戸川ウォーク	4. 1 (日)	杉本正夫 支部だより参照	3. 25 (日)	東武野田線 運河駅集合
西表島発見の旅	4. 12 (木) 4. 17 (火)	山田紀夫 支部だより参照	3. 31 (土)	西表のエキスパート 安間会員の案内で 定員 15 名
南高尾・草戸山	4. 8 (日)	高橋 正彦 支部だより参照	4. 1 (日)	歩行 5～6 時間 桜が見ごろ
大岳山～馬頭刈山	5. 26 (土)	山本 哲夫 支部だより参照	5. 20 (日)	歩行 6 時間 30 分～7 時 間
妙義山	6. 9 (土)	山本 哲夫 支部だより参照	6. 3 (日)	歩行 6 時間 又は 7 時間
越後駒ヶ岳と 平が岳	7. 1 (日) ～ 7. 3 (火)	山田紀夫 支部だより参照	6. 10 (日)	車 2 台分乗 10 名以内
第 34 回全国支部 懇談会	7. 21 (土) ～7. 22 (日)	三田 博 支部だより参照	3. 31 (水)	支部一括申込 早めの申し込みを

*電話での問合せは、支部長^{み き ゆうぞう}三木雄三宛てにお願いします。(TEL 090-4393-3515)

印刷

三陽メディア株式会社